

特別講演

資生堂における障がい者雇用と雇用継続の 取組みについて

株式会社資生堂

人事部 次長 / ダイバーシティ推進グループリーダー

真下 隆幸

資生堂における障がい者雇用と雇用継続の取り組みについて

株式会社資生堂

人事部 次長/ダイバーシティ推進グループリーダー

真下 隆幸

資生堂は、誰もがいきいきと活躍出来る職場を目指し、かねてより障がい者雇用に取り組んできた。私たちは、信念として、「本気で期待する」、「必要な配慮はするが、特別扱いはしない」、「働きたいという意欲ある人を積極的に応援する」、を掲げており、特例子会社「花椿ファクトリー」や本社オフィスなど、約 300 名の障がい者が働いている。

障がい者雇用の象徴でもある「花椿ファクトリー」では、30 名の知的障がい者が働いているが、「覚えることに時間はかかるが、一度覚えた仕事はしっかりこなす」、「真面目に熱心に働く」といった優れた点を活かせるよう、一人ひとりの特性を把握して業務を任せることにより、高い生産性と不良品がほぼゼロという作業レベルを維持している。設立後 6 年を迎えた本年、事業としての独り立ちも視野に入り、社内の注目度も一段と高まっている。

生産性と同様に重要課題と捉えている職場定着についても、支援機関と連携した活動を通じて 90%を超える定着率を確保しており、業務の習熟が生産性向上に結びついている。

一方、本社オフィスにおいても、定期採用を行っており、聴覚、体幹など、様々な障がい者が働いている。採用後は配属部署に部位別サポートマニュアルを提供し、働きやすい環境づくりに留意するとともに、フォロー研修を行い、重要な人財としてスキル向上を促進している。

冒頭に掲げたとおり、今後も全ての社員が高いモチベーションで働き続けられるよう、障がい者については様々な部署における「最適業務」を見きわめ、個々の能力が最大限発揮出来る企業活動を目指していく。